

分野横断的なアイデア等

○公共交通機関に関するもの

- ・公共交通機関において座席を予約する際に、シートマップに表示される情報を充実させる（例：「周囲の席を予約している人の性別」「乳幼児連れ」など）とより安心して利用することができる。
- ・子どもだけで航空機に搭乗できるサービスについては、例えば、夏休みに遠方の祖父母や親戚などに子どもを預ける場合に、便利なサービスであるため、他モード（新幹線や高速バスなど）にも展開されるとさらに選択が増える。

○鉄道に関するもの

- 《安心・安全の観点》
- ・女性がかかりやすい高さの吊革や手すりの設置
- ・電車とホームの隙間の解消
- ・車内防犯カメラの設置の普及
- ・ボックス席の奥側は、例えば、隣に大柄な男性が座ると逃げにくく、通客側からは死角もできるため、防犯上懸念がある。
- ・航空機などは乗車時に事故や災害などの際の対応について毎回アナウンスがされるが、電車の乗車中に事故や災害に巻き込まれた場合に何をすべきか（子どもを連れていっているときには特にどう行動をすべきか、長時間車内にとまる場合のトラブルなど）がわからないため、不安を感じるときがある。
- 《利便性の観点》
- ・リュックを前背負いされると、男性との身長差で顔に当たる。
- ・女性専用車両の車両位置や時間帯の工夫
- ・満員電車の解消
- ・生活利用としてのサイクルトレインの促進（都庁では、女性が自転車を利用して送迎を行うことが多い）
- ・駅構内における分かりやすいエレベーターや授乳室等の案内表示の設置
- ・新幹線の座席を予約する際のシートマップに表示される情報の充実

個別分野に係るアイデア等

○公共交通機関・まちづくりに共通するもの

- ・まちなかの明るさ（歩道やバス停など）が改善されると、夜間の外出時における不安感が和らぐ。
- ・ベビーカーを折り畳まずに電車やバスに乗車できるなど、ベビーカー利用が容易にできる環境整備
- ・公共交通機関やまちなかのバリアフリー化の促進
- ・駅などにおける女性トイレの行列の解消
- ・一人暮らしの高齢女性も外出が困難であり、特に配慮を行うべき。

《子育ての観点》

- ・周囲の目を気にせず、子どもなどが賑やかにしてよい車両の設定
- ・立てるくらいになった子どもが座席に座ってもよいという機種の醸成
- ・電車内における就学前くらいの子どものつかまれる場所の設置
- ・ベビーカーを折り畳まずに新幹線等に乗車できるスペースの設置や座席の工夫
- ・子どもだけで新幹線に安心して乗車させることができるサービスの実施

○バス・タクシーに関するもの

- ・夜間の待ち時間等の不安感を小さくするため、バス停の照度を上げる。
- ・女性ドライバーのタクシーの方が安心して利用できる。
- ・妊娠、出産期など、体調が悪いときに使いやすいタクシーの活用促進（料金の補助や低価格）
- ・高速バスの座席を予約する際のシートマップに表示される情報の充実
- ・立てるくらいになった子どもが座席に座ってもよいという機種の醸成
- ・バス車内における就学前の子どものつかまれる場所の設置
- ・ベビーカーを折り畳まずに乗れるタクシーの普及（例：ロンドンタクシー）
- ・子どもだけで高速バス等に安心して乗車させることができるサービスの実施

○まちづくりに関するもの

- ・まちづくり分野においては、地域づくりやコミュニティづくりを担っている女性の意見をさらに引き出していくことが重要である。
- ・空地の有効活用として、子どもの遊び場として一時的に利用できるように開放できるとよい。
- ・オリンピック開催時のバリのように、まちなかに無料の飲料水ポイント（ペットボトルを持参すると給水できる。）があるとよい。

○航空に関するもの

- ・機内持ち込み荷物の収納等について、サポートを充実してほしい。

○道路に関するもの

- ・ベビーカーが通りやすい広さや傾斜を考慮した歩道の整備
- ・石畳などの舗装は景観などはよいが、ベビーカーで押しづらい。
- ・駐輪場の設け方の改善（上下入れ並進のもの、特に電動自転車であれば、重く入れづらい。）
- ・通学路であっても、街灯が暗く、細くて逃げ道がない道があり、防犯上懸念がある。
- ・子どもを乗せた自転車はふたつため、車道や自転車専用道走行することに危険を感じる。

○その他

- ・官庁施設や公共施設における体調が悪いときに使える休憩スペース等の設置
- ・キッチンの高さや台の高さ、大きな扉や窓を開けるのにかなりの力がいりなど、住宅の設計においては、ジェンダー視点を踏まえるとさらに使いやすく改善できる。
- ・災害時の避難所などでの女性や子どもへの性被害について対策すべき。
- ・「女性」と一括りにせず、個人の属性を踏まえて、多様な選択肢を増やしていくことが重要である。

ジェンダー主流化の進め方に関するもの

○国土交通省が今後行うべきこと

- ・ジェンダーの視点を踏まえたデータの収集・分析を進め、男女の置かれている状況を客観的に把握することで、説得力を持って取組を進めていくことができる。
- ・ジェンダー主流化の取組に関して、省内が分断的になるのは望ましくなく、あらゆる関係部署等を巻き込むことが必要である。
- ・各原局が主体的に取り組むためには、各原局が関与した省内の推進体制の整備が必要である。
- ・ジェンダーの視点について考える風土を根づかせるため、職員に対する普及啓発を実施すべき。
- ・懇談会での意見やアイデアについて、関係部署等に押し付けるようなことにならないようにしてほしい。
- ・あらゆる政策・施策について、ジェンダー視点からの点検を実施すべき。
- ・政策の意思決定権者（中堅・幹部クラス）に女性が参画していることが必要である。

○所管業界に係る意見

- ・短時間勤務や在宅勤務などの柔軟な働き方の選択肢を増やすなど、女性活躍の取組の好事例について横展開を図っていくべき。
- ・業界横断的な職場環境の改善（例：女性トイレ・更衣室の整備、休憩スペースの設置など）
- ・女性の少ない業界では、ミッドキャリア層（30代後半～の就業経験のある層）の女性の流動性を高めるなど、人材確保における工夫が重要である。

- ・労働環境や人材確保などにおける女性活躍促進の取組に対して支援を行っていくべき。
- ・子どもたちが関心をもつ仕事、特に国土交通分野関係の仕事については、なり手に性別上の固定観念があるものが少なくないため、例えば、学校等への出前講座を積極的に活用するなど、アンコンシャスバイアスの払拭を図っていくべき。
- ・女性比率が低い職種については、男女比率のバランスの改善を図ることが必要である。
- ・身長制限など一方の性別にとって不利に働くルール・慣習等があれば見直すべき。

○留意点

- ・政策や施策のターゲットが子育て世代の女性に偏りがちになるため、年代別のニーズを整理すべき。
- ・都市部の生活や働き方のみならず、地方部などのニーズも整理していくべき。
- ・単なる「男女平等」という観点ではなく、ジェンダーの視点を考慮することにより、世の中がさらに良くなるという観点で取組むことが必要である。
- ・個人のマナーやモラルについて啓発するだけではなく、その根本にある社会のルールについて改善できないか考えていくべき。
- ・ジェンダー視点を考慮することで、例えば、経済合理性やカスケード効果などといった多様なメリットがもたらされる可能性があるということにも着目すべき。

（参考）民間事業者等で既に取り組みされている事例
※地方運輸局での座談会において紹介された事例

○女性活躍

- ・ワーキングマザー向けキャリア支援サービス（業界横断的に参加企業の職員が社外のワーキングマザーとマッチングし、中長期的なキャリア相談等を行うことができるアプリ）の提供

○鉄道

- ・女性専用車両の導入、防犯カメラ、女性専用トイレ、車両内のフリースペースの設置、子育てを応援するステッカーの掲示
- ・駅における授乳室の設置
- ・女性や子ども連れ利用者の移動の利便性に繋がるMa a Sアプリの提供

○バス

- ・高速バス車両におけるカーテン設置、女性利用しやすい座席配置の設定や女性優先席の設置
- ・乗客が乗車中の困りごとを運転士に直接伝えず、運行管理階にメールし、運行管理者が受信した内容を運転士に無線で伝える対応

○タクシー

- ・妊婦や子育て世帯をサポートする送迎サービスの提供

○観光

- ・女性向けの商品、女性専用フロア等の提供

注：この資料は、国土交通省が令和6年11月から令和7年3月にかけて開催した、ジェンダー主流化に向けた「若手・中堅女性職員による懇談会」のメンバーに、所属や役職から離れた自由な立場から国土交通分野の施策に関するアイデアや改善ポイントの提案を求め、分野別に整理したものであり、国土交通省として直ちに政策・施策として実施すると決めたものではない。